

そして、彼は「神の友」と唱えられた  
のびる。——ヤ「フ書」一・23——

日本ホーリネス教団委員長  
中山キリスト教会牧師

河野正之



今年の聖化大会も豊かな恵みと祝福のうちを終えることができ、心から主のみ名を賛美するとともに、祈りのうちにご奉仕し、ご協力下さった多くの方々に感謝いたします。

機関誌「聖化」の原稿を依頼されたこの機会に、最近考えさせられ、示され教えられていることを書かせていただくことにいたしました。それは、聖化によって何を指すのかということ、聖化の目的は何かと  
言い換えてもよいかと思えます。

今年になって、創世記の人物を通して聖化とは何かを学ばされていた時、アブラハムの生涯を通して、その目標を示されました。アブラハムは信仰の父と呼ばれますが、前掲のみ言葉が示すように、彼はまた、「神の友」とも呼ばれています。神の友と呼ばれることは、信じる者にとって最高のことで、聖書の中でも彼他に類を見ないように思います。

真の友となるために必要なものは

何でしょうか。第一に、相互に相手の思いを深くその生涯の出来事を通して、神のみ旨を理解することができようになり、神もまた、ご自分のみ旨やご計画を彼に示されるようになりました。

創世記一八章を見ると、神は彼に示さずにソドムとゴモラを滅ぼすことができないと言われ、それを示されたアブラハムは、神のみ旨を深く悟り、神に対してソドムとゴモラの救いを訴え、切なる執り成しの祈りをささげています。それは一見すると聞かれていないように思えますが、一九章二九節を見ると、彼の祈りの故に、神がロト一家を滅びの中から救われたことが記されています。

第二に必要なことは、友のためにどれだけ自分を犠牲にすることができると言うことです。主イエスが「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」と教えられました(ヨハネ一

五・13)。

アブラハムは最後には、そのひとり子イサクをさへ神のみ旨に従って献げることができるようになりました。もちろんそうなるために彼は、多くのことを経験する必要がありますであったと言えるでしょう。

私はこのアブラハムの生涯を通して、聖化された者が目指すべきものが何であるかを教えられています。それは、アブラハムのように神のみ旨を深く悟り、心から喜んでそのみに従い、必要な時には、自分を犠牲にすることのできる生涯であると  
言えましょう。

そうなるために必要なことは、聖化の明確な経験を持つことであり、具体的な生活の中で繰り返し、この世的なものからの分離と神のものとしての聖別を経験しつつ、成長することであると教えられています。

第17回聖化大会教勢・財勢報告

教勢

月 日	集 会 名	集 会 人 数
10月20日(月)	聖年大会	282
10月21日(火)	ミゼブシヨ	212
	レセブシヨ	41
	講壇学生交歓会	258
	聖	80
	聖	373
10月22日(水)	女性大会	411
	分科会	26
	I	56
	II	29
	III	34
	IV	38
	V	34
	聖 会	349

財勢

集 会 名	席 上 献 金	予 約 献 金	合 計
聖 会 I	277,461	447,100	724,561
聖 会 II	324,843	265,000	589,843
講 壇	202,747	692,000	894,747
女性大会	326,082	481,000	807,082
青年大会	117,154	—	117,154
そ の 他	2,424		2,424
合 計	1,250,711	1,885,100	3,135,811

主講師サムエル・カマ  
され、感謝でした。別

聖会Ⅰ「絶対愛」(ヨハネ21・15-21)

サムエル・カマレーソン博士

主は私たちのために十字架で死んだ。そこには私たちが知る以上の大きな力が隠されている。

主の弟子たちは主を知るようになった。ペテロがそうである。イエスは、ご自分の死について話された。しかし、イエスが十字架で死なされたとき、十字架は力である。これがわからない限り、私たちの価値観も変わらない。十字架が力である。どのように入力されるだろうか。

ペテロはイエスを傍らにおいて、キリストが苦しんだり、選んだりするべきではない。ところが、イエスは引き下がり、サタンと言われた。かつて荒野でサタンの試みを受けたとき、サタンはイエスの食欲、貪欲、野心に訴えた。同じ悪魔がペテロの心に同じ思想を吹き込んだのだ。主を愛してはいても、ペテロの価値観はイエスのものとは全く違うものであった。主は、誤まった価値観を十字架につけなさいと言われた。

弟子たちはイエスを愛してはいないが、思想がイエスのものと全く矛盾していた。誰が一番偉いかを論じたり、党派心にとらわれたり、だがイエスの内閣に入閣し、大臣になるか、野心を温めていた。私たちがこのような生来の価値観(肉の心)を持っている限り、十字架の力に対しては盲目となり、命を失うのである。私たちは主イエスの価値観に近づけるだろうか。

ペテロの場合、この価値観の違いは主との出会いから、十字架に至るまでほとんど大きく変わっていった。①大漁の奇跡の時には、自分とイエスの価値観があまりにも違うために私から離れてくたさいと願った。②イエスが自分の死について語ったときも、ペテロはあなたで不可解な価値観を持ち込まないと下さいと言っているかのよう反抗している。③イエスの仲間であることを否定した時、ペテロはすべてが終わったと思った。もうイエスのもとに帰ることはできないと思われた。

しかし、イエスは再びペテロに現われ、あなたは私を愛するかとお尋ねになる。決して、あなたは失敗したと責めることをなさらなかった。私たちはただ自分を責めることで、愛しますかという御声

を消してしまうことがあるが、イエスは失敗の向こうに、勝利をご覧になる。恥が現実には私たちの内にあるとしても、イエスは、あなたをよくよする自分に勝って私を愛するかとお尋ねになる。

君たちに必要なことは、自分を打ちたたくことではなく、私たちに招く主イエスの声に聞き、それに応答することである。私たちの持つ制限付きの愛をイエスの無限の愛にすべて委ねるのである。全く助けを失ったペテロは私があるたを愛することはあなたがご存じですと言った。言い換えるならば、私はあなたに捕らえられました、あなたの永遠の愛からもはや逃れることはできませんと主に告白したのである。そのペテロに私の羊を飼いなさいと言われた。このことばに従うことで愛は明らかになる。服従は愛の量りである。服従に従わない愛は情緒的な愛に過ぎない。愛は従い、譲るものである。イエスはお尋ねになる。何にも勝って私を愛するか。過去の記憶、痛みよりも、私を愛する愛のゆえに私に従えるか、あなたの愛を服従という量りて計りなさい。それがいのちの道である。

(寺村秀樹)

の一口あかし□

た後に、短い時間ではあったが、小グループに分かれてディスカッションが出来、とても良グループ内で発言できた。☆司会者を立てない、新しいさんびを歌うという企画はよかった。そして終わったしまった。残念!。☆280人をこえる人数があつまった。すごいネー!

# 第17回聖化大会（関東）報告

今秋10月20日(日)夕-22日(火)まで、JHA関東第17回聖化大会が淀橋教会で開催されました。レーソン博士をお迎えし、大いなる恵みとチャレンジを頂きました。初の試みの青年大会も、表の如く教勢、財勢を報告し、下記に聖会メッセージの概要を記します。

## 聖会II「驚くべき柔和さ」(マタイ7・21-27)

サムエル・カマレーソン博士

ホーリネスの群れては、行い、言葉のよさが強調される。私たちの生きる社会が、努力や怒り、恐れによって変わることはない。神が私たちの内に創造してくださった徳によってのみ実現する。マタイ五章で、イエスはそのことを直接的に語っておられる。五節に柔和な者は幸いとある。柔和な者は、自分自身の権利を主張せず、他の人のために嘆き悲しむ。その心を行動のために蓄えていく。どんな地上の力もそれをとどめることはできない。たとえ、黄金と引き換えに方向を変えよと要求されても、彼は変えない。なぜなら、主がとて大きな代価を払ってくださったので、だれも彼を買い取ることができない。まさに恐るべき柔和さである。彼らは地を相続するという。これが事実なら、なぜこのように明確な方向づけが私たちのうちには来ないのか。マタイ六、七章から、スタンレー・ジョーンズは、心が分かれた九つの状態を指摘している。①神にささげる施しか、人に見られたいのか。②神に向かっているのか、人々に聞かれたいのか。③神の前に断食するのか、人の賞賛を得るための断食か。④宝を蓄えるのは地上か、天か。⑤忠誠心の対

象は何か。⑥神に仕えるか、宝に仕えるか。⑦何に心遣いをしていくか。この世の必要か、天の事か。⑧兄弟を裁くときは激しいが、自分にはやさしい。⑨神に対して人格をささげるのか、汚れたものに与えるのか。これらの分かれた状態があると、私たちが社会に与えるインパクトが失われてしまう。この二分された心の状態一つにするのは誰なのか。主は締めくくりに、聖霊について語っておられる。聖霊がこの状態を癒してくださるのである。聖霊をどのようにイメージしたらよいだろうか。①聖霊を受け止める帆のイメージ(ヨハネ三章五・七節) 私たちがこの世の価値観に逆らって生きようとするとき、疲れてしまおう。しかし、あなたがたの心の中には聖霊に反応する帆のようなものがある。聖霊の力がその帆を通して受け止められるように神を見上げよ。②ぶどうの木にとどまる枝のイメージ(ヨハネ十五章五・二十一節) 常にどまると結びつけること、多くの実が結ばれる。御霊は私たちが心を開き、その中に住むことを期待している。そうするならば、私たちの内にある苦々しさを取り除き、

愛と自制を注ぎ込むことができる。③愛に対して明け渡した愛のイメージ(ヨハネ二十一章十五・二十一節) 私たちは神の前に出る前に自分を改善しようと努力すべきだろうか。主は私たちの稚拙な愛をも受け入れてくださる。それが私のすべてだからである。主の無限の愛に私たちが明け渡すのである。この聖霊は求めるならば与えられる。そして聖霊に支配された人は三つの特色を持つ。①自分にしてほしいことを他人に対して行う(マタイ七章十七節) 人々が正直になるのを待たなくても何も起きない。私たちが真っ先にその誠実さを行動に移すようにと言われている。②狭い門から入ること(十三・十四節) あらゆる世界で節制が求められるが、霊的世界でも節制が必要である。③良い実を結ぶ(十五・二十節) 私たちの内側にあるまつぐさという根がしっかりと立っているなら、そのような実を行動として結ぶ。ホーリネスは私たちの品性の変革であって、目立つことをする。しないで測られるものではない。聖霊が私たちがイエスに似たものに変えてくださり、その品性に基づいた活動のみが社会を変えることができる。(寺村秀嗣)

## □青年大会の恵

☆このような集会を持たたこと自体、大きな意義と前進があると思います。☆メッセージのあった。☆青年でない方々には遠慮して頂いての小グループだったので、青年たちは緊張し☆女性たちのグループが自分自身を出しづらかった。☆私のグループは自己紹介して、ちょ

# 地域だより

## 第七回山形聖化大会報告

一九九六年に始まった山形聖化交友会は今年で七回を迎えた。毎年、稲の穂が実り、収穫の時を迎える九月二十三日に聖化大会が行われる。今年も、去年会堂建築をされたばかりの、チャーチ・オブ・ゴッド大江町キリスト教会で行われた。山形県の庄内地方、最上地方、置賜地方、村山地方から約一〇名十一教会の兄弟姉妹が、聖潔を求めて集まった。まず、讚美の集いIが持たれ、聖御臨在の主への讚美がささげられた。

○聖会I  
今年の聖化大会の講師は、基督兄弟団石岡教会の高地博夫師。聖会Iでは、まず山形聖化交友会委員長の加藤昇師の講師紹介、基督兄弟団山形教会の平良友紀師の聖潔の証しが語られた。毎年、山形聖化大会では、教職、信徒の聖潔の証しがあり、生き方ホーリネスを教えられている。  
その後、講師の高地師が、ヘブル人への手紙第四章一―十一節から「クリスチャンの安息」について御言葉を取り次がれた。

クリスチャンに安息が必要である。安息には救われる第二の安息がある。主イエスは、マタイ十一章二十八―二十九節で、救いの安息(二十八)と、ペンテコステの安息(二十九)を語られている。また神は、救いの恵みを与えるために出エジプトをさせたのではなく、ヨルダン川を渡る第二の安息を与えるために、イスラエルを導き出したのである。

第二の安息とは、何からの安息か。

①自分の業からの安息。自分の業は、あせりを生み、最後は失望、落胆。しかし、神の業は、やればやるほど喜びが生まれる。神が成し遂げてくださった業(十字架の完全な業)に信頼するところに真の安息がある。

②将来についての安息。今日まで導いてくださった主は、将来も導いてくださる。この主に将来の思い煩いを委ねた者に、安息がある。

③内住の罪からの安息である。内なる戦いからの全き安息。主イエスのくびきを負うことにより高ぶりは砕かれ、柔和な謙遜な主に似たものとなり変えられる。ここにペンテコステの安息がある。

全ての理解を超えた、主の安息がなければ、主の御用をすることは出来ない。主と共にくびきを負う事によって、主との一体化によって、聖潔られた者だけが与えられる第二の安息をいただくことと勧められた。

昼食は、大江町教会の隣接する、新築されて間もない、「あゆみこども園」で行われた。教会ごとの紹介される、主にある豊かな交わりの時が持たれた。

○聖会II

讚美の集いIIによって心備えがなされ、聖会IIを迎えた。今年赴任された日本ホーリネス教団赤湯教会の宇戸平江利子師が聖潔の証しをされ、教職による讚美の後、創世記十七章一節から「クリスチャンの完全」という題で、主が完全になることを望んで

おられる主の御心が語られた。「完全になりなさい」とは、①聖潔の源泉―「わたしは全能の神である。」エルンヤダイという名に表されているように、限りない資源を持っておられるお方。全てを可能にしてください。主によって、私たちは完全な者になることが出来る。

②聖潔の道―「あなたは、わたしの前を歩み」主イエスは、くびきを共にして歩いてくださるお方。このお方と共に歩む中で完全な者に整えられる。

③聖潔の目標―「全き者であれ」イエス・キリストこそが、完全な者で、そのお方のようになることが目標である。

聖潔の源泉につながり、主と共に歩み、キリストに似た者とさせていただくこととチャレンジをいただいた。

この素晴らしい聖潔の恵みが、山形から全世界に広がることを心から願う者である。

(ウエスレアン・ホーリネス教会連合山形南部教会 岡 撰也)

### 総務リポート

▼執筆者方の厚いご協力を賜り、念願の年三回発行にこぎつけることができました。心より感謝申し上げます。(係)